

# 東京五輪の夢 応援

福岡県中間市の工業団地の一角にある、階下が工場の私設卓球練習場から、今年度の中学、高校女子の全国王者が誕生した。「選手に良い練習環境を与えたい」。北九州市と中間市で卓球クラブを主宰し、五輪選手を育てた石田真行さん(61)の願いに、地元の中小企業経営者、尾畑宇喜雄さん(67)が応え、約5000万円かけて工場を改装した。石田さんと尾畑さんは「ここから五輪代表が育ってほしい」と夢を描く。

【奥田伸一、写真も】



尾畑宇喜雄さん



石田真行さん

練習場の名は「フロム石田卓球場」。鉄骨2階建ての2階部分約800平方メートルが練習場で、最大16台の卓球台が置ける。1階は尾畑さんが会長を務めるデイスボーラー(生ごみ粉碎機)メーカー「フロム工業」の工場(約1200平方メートル)だ。

練習場の壁は、ボールが見分けやすいように青色に塗った、JOC(日本オリ

ンピック委員会)の強化拠点、味の素ナショナルトレーニングセンター(東京都北区)の卓球場とほぼ同じ色にした。下半身への負担を軽くするため、フローリングと基礎のコンクリート間にゴム製クッションを敷き、ボールが天井にぶつからないよう4〜5センチの高さにした。1階工場の一 corner 約130平方メートルには10人ほどが寝泊まりできる、トイ

## 中間の自社工場2階を改装——私財投じ卓球練習場



壁の色など細部にこだわった練習場—福岡県中間市垣生で

レ、風呂付きの合宿所も作った。

### 3年で2人の日本一誕生

同卓球部の女子チーム

石田さんは1988年に北九州市八幡西区に卓球クラブを開設。同市出身で北京、ロンドン両五輪代表の岸川聖也選手(27)を育て、今は中間市の私立希望が丘高卓球部の総監督も務める。

は2009年に始動した「後発組」で専用練習場がないのが悩みの種だった。「選手たちに、もっといい練習環境で指導できないか」。そう悩んでいた時「日本一を目指す子供を応援しよう」と自社工場の改装を申し出たのが尾畑さんだった。尾畑さんは7年前に石田さんの卓球クラブに入り、ラケットを振っていた。練習場は2011年秋に着工、翌12年3月に完成した。この年4月に希望が丘高に入学し、卓球部に入部した前田美優さん(18)は、ここで練習を積み、1、3年時のインターハイで優勝した。同じくここで練習している中間東中2年、早田ひなさん(14)は全国中学校大会を2連覇中だ。前田さんは世界ランキング55位、早田さんは64位(ともに1月3日現在)につけ、20年の東京五輪に照準を合わせる。

石田さんは「この練習場ができて世界を目指すために必要な質の高い練習ができるようになった」、尾畑さんは「子供たちをなんとか大舞台に送り出したい」と話している。